

平成 29 年度シラバス (保健)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科 (科目)	保健体育 (保健)	単位数	1 単位	学年 (コース)	1 学年 (全コース)
使用教科書	大修館書店 最新高等保健体育				
副教材等	なし				

1. 学習目標

日常生活において健康・安全についての理解を深めることで自らの健康を適切に管理・改善し、生涯を通じて健康の保持増進を図る資質と能力を育てる。

2. 指導の重点

高齢化社会を迎え、生涯を通じて健康的な生活を送る為の知識や技術を身につける必要があることから

①現代社会の疾病構造や社会の変化を理解し、それに対応した健康の保持増進を目指します。

②我々の日常生活に関わる疾病や感染症について、その影響と予防対策について理解することを目指します。

③心と体の関わりについて理解し、安全で健康に生活するための理解を深めます。

3. 指導計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第1単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 食事と健康 4 運動・休養と健康 5 喫煙と健康 6 飲酒と健康		○健康の考え方が変化してきていることを例をあげて説明できる。 ○健康を成り立たせている要因をあげることができる。 ○わが国の健康水準の変化とその背景を説明できる。 ○わが国の現在の健康問題をあげることができる。	3	・授業への参加状況や取り組み方 (関心・意欲・態度) ・課題等の提出状況や記述内容 (思考・判断、知識・理解) ・各定期考査の結果や単元テストの結果 (知識・理解) ・授業態度 ・各学期の考査前後に課題レポート ・各学期の考査前後に授業ノートを提出 ・単元毎に課題問題を行った場合 (自習時間等) などを、総合的に評価し、 各学期評価する 学年末は各学期の点数を参考にして評価する
5	7 薬物乱用と健康 8 感染症とその予防		○健康に関する意志決定・行動選択には何が重要かを説明できる。 ○ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴を説明できる。 ○生活習慣病の例をあげ、なぜその病気が生活習慣病と呼ばれるかを説明できる。 ○生活習慣病を予防する方法を2つに分けて説明できる。	3	
6	9 性感染症・エイズとその予防 10 欲求と適応機制		○健康にとっての食事の意味について説明できる。 ○健康的な食事のポイントをあげることができる。 ○運動が健康に及ぼす影響と、健康によい運動のおこない方について説明できる。 ○健康にとっての休養の意味と、適切な休養のとり方について説明できる。	4	
7	11 心身の相関とストレス 12 心の健康のために	◎期末考査		1	
	◎期末考査		○喫煙者やその周囲に人に起こる害を説明できる。 ○日本や世界における喫煙対策の例をあげることができる。 ○飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ○飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策の例をあげることができる。	2	
9	13 交通事故の現状と要因		○薬物乱用が心身の健康や社会に与える影響について説明できる。 ○薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策の例をあげることができる。 ○新たな感染症の問題に関して例をあげて説明できる。	3	

10	14 交通事故を防ぐために 15 応急手当の意義とその基本	○感染症の予防対策について、社会と個人に分けて説明できる。 ○性感染症とは何か説明できる。 ○性感染症・エイズの予防対策について、個人と社会に分けて説明できる。 ○人間の欲求の種類を説明できる。 ○欲求不満に対処するための適応機種の例をあげることができる。	3	
11	16 日常的な応急手当	○心と体の働きが相互に影響しあう関係について例をあげて説明できる。 ○ストレスの心理・社会的要因と物理的要因の例をあげることができる。 ○ストレスへのさまざまな対処方法の例をあげることができる。 ○自己実現と心の健康の関係を説明できる。	3	
12	◎学年末考査		1	
1	17 心肺蘇生法の原理とおこない方	○若者の交通事故の特徴を説明できる。 ○交通事故の発生に関係する要因を、例をあげて説明できる。 ○運転者に必要な資質と責任を説明できる。 ○安全な交通社会づくりのための個人の対策を、例をあげて説明できる。	1 3	
2		○適切な応急手当の意義を説明できる。 ○傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。 ○日常的なけがの応急手当の手順や方法を説明できる。 ○熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。	2 1	
3		○胸骨圧迫、人工呼吸、AEDによる除細動の原理を説明できる。 ○心肺蘇生法の各手順のポイントをあげることができる。	2	

計32時間(55分授業)

※進度により内容が変更する場合があります。

4. 課題・提出物等

- ・保健体育ノートの提出
- ・授業時に配布する課題プリントの提出
- ・DVD学習時におけるレポート提出

5. 評価規準と評価方法

評価は次の3観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取組もうとしている。	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して知識を活用した学習活動などにより、合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。
以上の観点を踏まえ ○授業への取組(授業態度、学習活動への参加状況等) ○提出物(保健ノート、課題、プリント、レポート等) ○定期考査(1学期末、2学期末、学年末)などから、総合的に判断します。		

6. 担当者からの一言

毎時間かならず、教科書と保健体育ノートを持参してください。
保健体育ノートは授業時や考査時に提出になります。
授業でのグループワークや発表では活発な意見を期待しています。